

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-2-3		事業名	定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業
担当	環境局環境事業部ごみ減量推進課 林 TEL 211-2928			
全体計画				
事業内容	温泉街である定山溪地区の生ごみの減量・資源化の推進とこれによる健康保養温泉地としての魅力向上を目的に、ホテル・旅館等から排出される生ごみの堆肥化から、これを使用した農産物の生産・消費までを同一地域内で行う、生ごみの「地域内循環」の確立を目指し、地元住民・地元団体と合意形成を図りながら、同地区の「バイオマスタウン構想」を策定し、当該構想に基づき、民間事業者の堆肥化施設整備のサポートや生ごみ堆肥の活用拡大など、同地域の恒常的な地域内循環の確立に向けて取り組む。		＜年度別の事業内容＞	
			<p>【平成19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスタウン構想の策定 ・市民への普及啓発 <p>【平成20年度～平成22年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥活用拡大に向けた調査・検証 ・市民への普及啓発 	
事業内容・量・場・所・規模・件数等	平成19年度事業内容（決算）		平成20年度事業内容（決算）	
	<p>定山溪地区における恒常的な生ごみの地域内循環の確立を目指すため、同地区への堆肥化施設の整備に向けて、バイオマスタウン構想を策定した。</p> <p>また、本事業をPRするため、イベント「エコ収穫祭」やホテル・旅館等における「エコ野菜フェア」を実施したほか、同地区で開催される各種イベント（森林スポーツフェスタ、湯のにぎわいフェア、八剣山さくらんぼまつり）に参加し、普及啓発を図った。</p>		<p>札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想を実現させるために、同地域への生ごみ堆肥化施設の整備を民設民営で進めるべく民間事業者との調整を行ったほか、地域バイオマス利活用交付金の利用に係る事務手続き等を行った。燃料や建設資材の高騰及び世界的な金融危機の影響を受けて、当初の事業計画を見直した。</p> <p>北海道立中央農業試験場に生ごみ堆肥の施用効果に関する委託試験を実施した。堆肥1tあたり窒素量で5kg程度の肥料効果が確認され、生ごみ堆肥を施用することで化学肥料の施用量を減らすことができた。</p> <p>本事業をPRするため、イベント「エコ収穫祭」やホテル・旅館等における「エコ野菜フェア」を実施したほか、同地区で開催される各種イベント（森林スポーツフェスタ、湯のにぎわいフェア、八剣山さくらんぼまつり）に参加し、普及啓発を図った。</p>	
	平成21年度事業内容（決算）		平成22年度事業内容（決算）	
	<p>○札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想を実現させるため、同地域に生ごみ堆肥化施設の整備・運営を行う予定の民間事業者との調整を行ったほか、地域バイオマス利活用交付金の利用に係る事務手続き等を行った。</p> <p>○北海道立中央農業試験場に生ごみ堆肥の施用効果に関する委託試験を実施し、生ごみ堆肥の施用技術に係るデータを蓄積した(3年計画の2年目)。20年度と同様に、生ごみ堆肥の高い肥料効果が確認された。</p> <p>○生ごみ堆肥の活用拡大に向けて、農家や農業協同組合、堆肥化事業者などで構成する「札幌市定山溪地域バイオマスタウン推進協議会」を設立し、バイオマスタウン構想の実現に向けた取り組みを進めた。</p> <p>本事業をPRするため、同地区のイベントに参加し、エコ収穫祭を開いて普及啓発を図った。</p>		<p>○定山溪地域内に民設民営による生ごみ堆肥化施設の整備が完了した。札幌市として、整備主体である民間業者への補助金交付事務などを通して、支援を行った。</p> <p>○中央農業試験場への生ごみ堆肥の施用効果に関する委託試験を継続し、同堆肥の施用技術が北海道において指導参考事項に採択され、公的な技術として普及されるようになった。</p> <p>○「札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想推進協議会」を通して、生ごみ堆肥の利用推進及び生ごみ堆肥を利用して生産された作物の利用推進を図った。</p>	

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-2-3			事業名	定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
[定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業]参加事業者の生ごみ分別量	1.6t/日	1.9t/日	1.8t/日	1.6t/日	1.7t/日	3.2t/日	
【参考】堆肥の使用量	20t	140t	173t	289t	165t	160t	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 「定山溪地区まちづくり協議会」を4回実施し、延べ73名の市民・事業者の参加得て、住民合意の基に「札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想」を策定した。また、平成21年9月(地元市民39名参加)と平成22年4月(地元市民31名参加)に当該事業に係る地元説明会を実施した。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] 該当なし [人材協力] 該当なし [情報協力] 該当なし [その他の協力] 地元のホテル・旅館等は、当該事業の推進に欠かせない生ごみの分別収集に自主的に取り組んでいる。また、地元農家も当該事業の生ごみ堆肥の活用に自主的に参加している。本事業の核となる堆肥化施設の整備については民設民営で行う計画である。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 地元の住民団体や観光団体及び農業協同組合や公的農業研究・普及機関などで構成される「札幌市定山溪地域バイオマスタウン推進協議会」において当該事業を推進している。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>○延べ73名の市民・事業者の参加を得て、地域の合意の基に「定山溪地域バイオマスタウン構想」を策定した。平成19年度は597トン、平成20年度は570トン、平成21年度は502トン、平成22年度は542トンの生ごみが堆肥化され、同地域の農家が本事業の生ごみ堆肥を活用して農作物を生産した。生産した農作物は、同地域で開催するPRイベント「エコ収穫祭」において市民に提供されたほか、同地域のホテル・旅館において食材として活用され、バイオマスタウン構想の実現に向けて気運が高まった。</p> <p>○堆肥活用農家数や堆肥の活用量は平成18年度のモデル事業実施時より、拡大しているが、今後、更なる生ごみ堆肥の活用拡大に向けて取り組むため、農協や農業試験場、農業団体などの関係機関等と調整を図った。農業試験場においては、生ごみ堆肥の施用効果について科学的な検証を行い、今後の生ごみ資源の地域内循環を進める上で重要なデータを得ることができ、北海道において公の技術として承認を受けた。</p> <p>○本事業の実現のために核となる生ごみ堆肥化施設の整備が民設民営により行われた(地域バイオマス利活用交付金を活用)。</p>			<p>○バイオマスの安定的な確保</p> <p>○生ごみ堆肥の利用推進</p> <p>○生ごみ堆肥を利用して生産された作物の利用推進</p>				
今後の事業の予定・方向							
○札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想推進協議会を通して、生ごみ堆肥の利用推進及び生ごみ堆肥を利用して生産された作物の利用推進を図る。							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		4-2-3			事業名	定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	1,400	3,000	3,000	2,600	10,000				
	財源内訳	国・道支出金	700				700			
		市の債					0			
		その他の他					0			
	一般財源	700	3,000	3,000	2,600	9,300				
予算	事業費	1,400	37,323	15,420	256,950	311,093				
	財源内訳	国・道支出金	700	34,323	13,440	254,950	303,413			
		市の債	0	0	0	0	0			
		その他の他	0	0	0	0	0			
	一般財源	700	3,000	1,980	2,000	7,680				
実績	事業費	1,995	1,881	15,294	247,169	266,339				
	財源内訳	国・道支出金	998	0	13,300	245,174	259,472			
		市の債	0	0	0	0	0			
		その他の他	0	0	0	0	0			
	一般財源	997	1,881	1,994	1,995	6,867				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					2663.4%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
バイオマスタウン構想策定に係る委託業務の委託料の増										
[20年度]										
世界的な経済環境の変化に対応するため堆肥化施設整備計画を見直し施設整備等を1年間先送りしたことに伴う地域バイオマス利活用交付金の変更(交付金は、本市を経由して、堆肥化施設を整備する民間事業者へ交付される)										
[21年度]										
「生ごみ堆肥化推進協議会(仮称)」を「札幌市定山溪地域バイオマスタウン構想推進協議会」とし、平成21年4月に設立。 生ごみ堆肥化施設整備に係る民間事業者への補助金として13,300千円を支出(補助対象事業費の3分の1、国費補助)										
[22年度]										
生ごみ堆肥化施設整備に係る民間事業者への補助金として245,174千円を支出(補助対象事業費の3分の1、国費補助)										